

Chapter 13

競技会について

上を目指せばキリがないのはどんな世界でも同じことだ。

「好きだ」「得意だ」と感じているなら 10 人に 1 人の領域にいる。時間と労力を惜しまず毎日努力すれば多くの方は 100 人に 1 人の領域に到達する。もし天才的な才能があり、それをうまく発揮することができれば 1000 人に 1 人の領域に到達する。

独創的・芸術的な取り組みがうまくいき、人間の限界にチャレンジできれば更に上の 10000 人に 1 人の領域に到達する。100000 人に 1 人の領域に到達すれば、その競技で日本を代表する選手になっている。スポーツとはそういうものだと思う。

陸上競技における世界最高峰の大会はオリンピックである。日本で高跳びが行われるようになって 100 年以上経つが、2016 年のリオオリンピック終了時点でオリンピックの出場者は男子 17 名、女子 11 名である。これは高跳びの競技人口を考えれば極めて少ない数である。

また、高跳びではオリンピックのメダル獲得者は過去にいない。それどころか男子は 1972 年以降決勝進出者がおらず、女子は 2000 年以降出場者がいない状況である。日本の高跳びの競技レベルが低いことはないが、世界との差は大きい。

第 13 章では国内と国外の主要競技会について、その位置づけや特徴、歴代優勝記録、日本代表選手の結果についてまとめて示す。

13.1 登録について

陸上競技の試合に出場したい場合は日本陸連に登録して試合に申し込む

公認記録の取れる陸上競技の試合に出場したい場合は、日本陸上競技連盟（以下：日本陸連）に登録する必要がある。日本陸連の規定では、日本陸連に登録して、事前に検定を受けている距離及び器具で実施された公認競技会で記録を出し、競技会終了後 30 日以内に指定された方法で結果が申請された記録が公認記録となる（通常は選手が記録の申請を直接行うことはない）。

社会人であれば個人もしくは団体をまずは都道府県陸協に登録し、都道府県陸協経由で日本陸連に登録する。大学生は地区学連、日本学連経由で日本陸連に登録する。高校生は都道府県高体連、都道府県陸協経由で日本陸連に登録する。中学生であれば都道府県中体連、都道府県陸協経由で日本陸連に登録する。こうした仕組みは日本陸連 HP の登録の仕組みにその詳細と最新の情報が公開されているので参考にしてほしい。

登録については通常はチーム（もしくはクラブ活動）の部長、監督、顧問、主務が行うため、選手がその仕組みを理解しておく必要はあまりない。

13.2 国内の主要競技会

13.2.1 国内の主要競技会

日本陸連 (JAAF) やその協力団体の発表する主要競技会日程を見れば国内の主要競技会が分かる

日本陸上界は日本陸連をトップとしてその関連団体である協力団体と都道府県陸上競技協会が主に構成されている。日本国内の主要競技会は日本陸連 (JAAF) やその協力団体（日本実業団陸上競技連合、日本学生陸上競技連合、全国高体連陸上競技部、日本中学校体育連盟、日本マスタース陸上競技連合）が発表する主要競技会日程を見れば分かる。主要競技会日程は日本陸連やその協力団体の HP にアップロードされている。一例として 2015 年度の主要競技会を図 13.1 にまとめる。（図 13.1 は高跳びに関連する主要競技会のみを記載している）

●2015年度 日本陸連の主催試合

競技会名	場所	期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
ゴールデンランナー	等々力(神奈川)	5/10	基本的に主催者が出場者を選考		237	未実施
日本選手権	フジビックスタジアム(新潟)	6/26~6/28	A:216 B:213	A:175 B:172	226	181
全国高校陸上	紀三井寺(和歌山)	7/29~8/2	以下の地区予選会の6位までの選手: 北海道・東北・北関東・南関東・北信越 東海・近畿・中国・四国・北九州・南九州		216	175
全国中学陸上	厚別(北海道)	8/18~8/21	185	160	199	169
全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)	8/22	各都道府県陸上競技協会による選考を 経た後に出場選手を選考(各都道府県で 最大男女1名ずつ)		148	138
国民体育大会	紀三井寺(和歌山)	10/2~10/6	各都道府県陸上競技協会が選考		成年:221 少年共通:215	成年:181
日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	10/16~10/18	207	170	220	173
日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	10/16~10/18	201	168	206	176
ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	10/23~10/25	191(中学3年)		163(中学3年)	198
日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)	3/12~3/13	204	170	210	174

※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

●2015年度 日本GP

競技会名	場所	期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
織田記念陸上	広域公園(広島)	4/18~4/19	実施なし	実施なし	未実施	未実施
日本選抜陸上和歌山	紀三井寺(和歌山)	4/25~4/26	実施なし	実施なし	未実施	未実施
兵庫リレーカーニバル	ユニーバー記念(兵庫)	4/25~4/26	実施なし	実施なし	未実施	未実施
静岡国際陸上	エコパ(静岡)	5/3	214	173	228	181

※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

●2015年度 協力団体の主要競技会(日本陸連の主要競技会日程に記載があるもの)

競技会名	場所	期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
日本学生個人	平塚(神奈川)	6/12~6/14	210	169	220	181
実業団・学生対抗	平塚(神奈川)	7/25	実業団・学生から3名ずつ選抜		220	実施なし
日本学生対校	長良(大阪)	9/11~9/13	A:214 B:211	A:175 B:170	225	176
全日本実業団	長良川(岐阜)	9/25~9/27	202	160	221	181
全日本マスターズ	長良川(岐阜)	10/30~11/1	年齢制限のみ		M25 155 M30 190 M35 195 M40 180 M45 175 M50 175 M55 160 M60 150 M65 135 M70 135 M75 125 M80 120 M85 95	W25 151 W40 148 W45 129 W50 132 W55 127 W60 103 W65 115 W75 102

※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

図 13.1: 日本国内の主要競技会

日本陸連が主催する競技会の中で最も重要な試合は日本選手権である。日本選手権が日本選手の頂点を決める試合であり、オリンピックや世界選手権（世界陸上）の世界大会の選考において最も重要視される試合である。

また、*IAAFWorldChallenge*の一環として実施されるゴールドングランプリも特別な大会に位置付けられている。*IAAFWorldChallenge*の主催者は国際陸上競技連盟であり、*IAAFWorldChallenge*は国際大会のサーキットとして世界中で実施されている（2015年は全12戦）。全ての試合に高跳びがあるわけではないため、毎年日本で高跳びがあるわけではないが、世界の一流選手が出場し、オリンピックや世界選手権（世界陸上）の代表選考を兼ねる重要な競技会として実施される。

日本陸連が主催する試合では日本選手権とゴールドングランプリが特に注目度の高い試合だといえる。陸上競技の試合は一般的にそれほど入場者数が多いが、オリンピックイヤーの2016年は日本選手権（愛知）で約26800人、ゴールドングランプリ（神奈川県）で約23500人の入場者数となっている。

日本陸連主催の試合ではないが、グランプリ系の試合である日本GPも重要な意味を持つ競技会である。こちらも主要競技会に位置付けられ、オリンピックや世界選手権（世界陸上）の代表選考を兼ねる競技会となっている。全ての試合に高跳びがあるわけではないが、GPシリーズに位置付けられる試合のどれかで必ず高跳びが実施される。2015年度は男女ともに静岡国際陸上で競技が実施されている。

13.2.2 年齢クラス別の主要競技会

年齢クラスに分けられた主要競技会としてはジュニアオリンピック，日本ユース選手権，日本ジュニア室内大阪，日本ジュニア選手権，国民体育大会などがある。国際的な基準では競技会開催年の12月31日時点で18歳未満の者をユースと呼び，競技会開催年の12月31日時点で20歳未満の者をジュニアと呼ぶことが多い。日本の場合は学齢を考慮して競技会の年齢クラスが決められている場合があるので注意が必要となる。

各大会の年齢制限の詳細については募集要項に記載があるので，そちらを参照してほしい。ここでは参考までに2015年度に開催された各大会の年齢クラス分け定義を図13.2，図13.3にまとめて示す。

競技会名	各競技会の年齢制限(2015年度の試合の場合)
国民体育大会 平成27年10月2日～ 平成27年10月6日	成年：平成9年4月1日以前に生まれた者 少年共通：少年A+少年B 少年A：平成9年4月2日以降平成11年4月1日までに生まれた者 少年B：平成11年4月2日以降に生まれた者 ※ただし中学生は3年生のみ参加できる
日本ジュニア選手権 平成27年10月16日～ 平成27年10月18日	平成8年1月1日から平成12年4月1日の間に生まれた競技者
日本ユース選手権 平成27年10月16日～ 平成27年10月18日	平成10年4月2日から平成12年4月1日の間に生まれた競技者 ※同時に開催される日本ジュニア選手権の標準記録を突破した場合は日本ジュニアに申し込みすることができる。 ただしその場合は同一あるいは他の種目で日本ユース選手権への申し込みはできない。
ジュニアオリンピック 平成27年10月23日～ 平成27年10月25日	A：平成12年4月2日生～平成13年4月1日生 B：平成13年4月2日生～平成14年4月1日生 C：平成14年4月2日生～平成15年4月1日生
日本ジュニア室内大阪 平成28年3月12日～ 平成28年3月13日	中学生の部：平成12年4月2日～平成15年4月1日の間に生まれた者で中学校に在籍している者 ジュニアの部：平成9年1月1日以降に生まれた者 ※中学生は「中学生の部」にしか参加できない

図 13.2: 年齢クラス別の主要競技会の年齢制限

学校	誕生日	平成27年度年度の競技会						
		平成27年 4月1日時点 の学年	平成27年 4月1日時点 の年齢	国体 平成27年10月2日～ 平成27年10月6日	日本ジュニア 平成27年10月16日～ 平成27年10月18日	日本ユース 平成27年10月16日～ 平成27年10月18日	ジュニアオリンピック 平成27年10月23日～ 平成27年10月25日	日本ジュニア室内大阪 平成28年3月12日～ 平成28年3月13日
		学年	年齢	成年	少年A	少年B	ジュニアの部	中学生の部
大学	～平成7年4月1日	大学生3年以上	20以上					
	平成7年4月2日～平成7年12月31日	大学生2年	19					
	平成8年1月1日～平成8年4月1日	大学生2年	18					
	平成8年4月2日～平成8年12月31日	大学生1年	18					
高校	平成9年1月1日～平成9年4月1日	大学生1年	18					
	平成9年4月2日～平成9年12月31日	高校3年生	17					
	平成10年1月1日～平成10年4月1日	高校3年生	17					
	平成10年4月2日～平成10年12月31日	高校2年生	16					
	平成11年1月1日～平成11年4月1日	高校2年生	16					
	平成11年4月2日～平成11年12月31日	高校1年生	15					
中学	平成12年1月1日～平成12年4月1日	高校1年生	15					
	平成12年4月2日～平成12年12月31日	中学3年生	14					
	平成13年1月1日～平成13年4月1日	中学3年生	14			A		
	平成13年4月2日～平成13年12月31日	中学2年生	13			B		
	平成14年1月1日～平成14年4月1日	中学2年生	13			C		
小学	平成15年1月1日～平成15年4月1日	中学1年生	12					
平成15年4月2日～	小学5年生以下	11以下						

参考：IAAFの主催する世界ユース選手権(隔年実施)は開催年の12月31日時点で16歳～17歳の者(U18)が資格者となる
参考：IAAFの主催する世界ジュニア選手権(隔年実施)は開催年の12月31日時点で16歳～19歳の者(U20)が資格者となる

図 13.3: 年齢クラスの定義

13.2.3 学校区分別の主要競技会

ここでは学校区分別の主要競技会を説明する。

小学生の主要競技会

全国小学生陸上（全国小学生陸上競技交流会）が主要な大会であり，全国小学生陸上の予選会や，選抜陸上競技大会が主な試合となる。

中学生の主要競技会

全国中学陸上（全日本中学校陸上競技選手権大会，全日中と呼ばれることもある）が主要な大会であり，全国中学陸上の予選となる地区総体（市区町村や都道府県レベルで行われる中学校総合体育大会）や新人大会，通信陸上競技会などが主な試合となる。

高校生の主要競技会

全国高校陸上（全国高等学校陸上競技選手権大会，全国高校総体やインターハイと呼ばれることもある）が主要な大会であり，全国高校陸上の予選となる地区総体（市区町村や都道府県レベルで行われる高等学校総合体育大会）や新人大会などが主な試合となる。

大学生の主要競技会

日本学生対校（日本が学生対校陸上競技選手権大会，全日本インカレや全カレと呼ばれることもある），日本学生個人（日本学生陸上競技個人選手権）が主要な大会であり，日本学生対校の予選となる地区インカレ（各学連が行う学生陸上競技対校選手権大会）や大学同士で行う対校戦などが主な試合となる。

大学同士で行う対校戦は大学陸上部にとって特別なものであり，大学によっては最も重要な試合に位置付けられることもある。

社会人（実業団選手）の主要競技会

全日本実業団（全日本実業団対抗陸上競技選手権大会）が主要な大会であり，全日本実業団の予選となる地区実業団の大会が主な試合となる。実業団で陸上を続ける選手の多くは日本のトップレベルの選手であるため第13.1節に示した日本国内の主要競技会を重要な試合に位置付けて競技を行う選手が多い。

13.3 国外の主要競技会

13.3.1 アジア陸上競技連盟が主催する主要競技会

アジア地域の陸上競技の統括団体であるアジア陸上競技連盟（以下:アジア陸連, AAA）が主催する主要競技会を図 13.4 にまとめる。主要競技会日程はアジア陸連の HP を見るか、日本陸連が発表する主要競技会日程を見れば分かる。（図 13.4 は高跳びに関連する主要競技会のみを記載している）

●国際陸連の主催試合(World Athletics Series)

競技会名	開催 周期	直近の 開催地	直近の 期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
Asian Athletics Championships (アジア選手権)	2年周期	China Wuhan	2015/6/3~ 2015/6/7	派遣設定記録: 228	派遣設定記録: 192	224	191
Asian Indoor Athletics Championships (アジア室内)	2年周期	Qatar Doha	2016/2/19~ 2016/2/21	日本陸連により選考		235	192
Asian Junior Athletics Championships (アジアジュニア)	2年周期	Vietnam Ho Chi Minh City	2016/6/2~ 2016/6/6	参加標準記録: 203	参加標準記録: 172	216	174
Asian Youth Athletics Championships (アジアユース)	2年周期	Qatar Doha	2015/5/8~ 2015/5/11	日本陸連により選考		215	174

※2016年11月時点で直近の大会の情報を記載している
※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

図 13.4: アジア陸連の主要競技会

アジア陸連の主催する競技会は通常は標準記録が設定されておらず、各国陸連の裁量で出場選手を選ぶことが多い。

2015年のアジア選手権の場合は、日本陸連が世界ランキング 32 位相当となる派遣設定記録を定めており、日本 GP シリーズとゴールデングランプリが選考競技会となっている。また、このときの選考の優先順位は

1. 有効期間内に、アジア選手権派遣設定記録を満たし、選考競技会で日本人 8 位以内の競技者
2. 本大会でメダル獲得を期待できる、選考競技会で日本人 8 位以内の競技者
3. 強化育成部から推薦された今後国際大会で活躍が期待される競技者

となっている（詳細は日本陸連の代表選手選考要項を参照すること）。

13.3.2 国際陸上競技連盟が主催する主要競技会

陸上競技の国際的な統括団体である国際陸上競技連盟（以下:国際陸連, IAAF）が主催する主要競技会を図 13.5, 13.6 にまとめる. 主要競技会日程は国際陸連の HP の *COMPETITIONS* の項目を見れば分かる. (図 13.5, 13.6 は高跳びに関連する主要競技会のみを記載している)

●国際陸連の主催試合(World Athletics Series)

競技会名	開催 周期	直近の 開催地	直近の 期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
IAAF World Championships (世界選手権, 世界陸上)	2年周期	China Beijing	2015/8/22~ 2015/8/30	参加標準記録: 228 派遣設定記録: 231	参加標準記録: 194 派遣設定記録: 194	234	201
IAAF World Indoor Championships (世界室内)	2年周期	United States Portland	2016/3/17~ 2016/3/20	233	197	236	196
IAAF World U20 Championships (世界ジュニア)	2年周期	Poland Bydgoszcz	2016/7/19~ 2016/7/24	216	183	227	191
IAAF World U18 Championships (世界ユース)	2年周期	Colombia Cali	2015/7/15~ 2015/7/19	参加標準記録: 206 派遣設定記録: 過去大会入賞相当	参加標準記録: 177 派遣設定記録: 過去大会入賞相当	220	190
IAAF Continental Cup (コンチネンタルカップ)	4年周期	Morocco Marrakech	2014/9/13~ 2014/9/14	アジア地域の ランキングから選出	アジア地域の ランキングから選出	237	199

※2016年11月時点で直近の大会の情報を掲載している
※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

図 13.5: 国際陸連の主要競技会 (World Athletics Series)

国際陸連が主催する競技会の中で最も重要な大会は世界選手権であり, 世界最高峰の大会である. 2015 年には参加国数 207, 参加選手数 1933 名の規模で実施されている. 参加国数が多く, 規模が大きいことからオリンピックやサッカー W 杯と並び世界三大スポーツイベントの一つと呼ばれることも多い.

2015 年の世界選手権の場合は国際陸連が定めた参加標準記録 (フィールド種目は出場者が 32 人程度になるように設定されている) と, 日本陸連が定めた派遣設定記録 (世界ランキング 12 位相当に設定されている) があり, アジア大会と日本選手権, 日本 GP シリーズ, ゴールデングランプリ, アジア選手権が選考競技会となっている (詳細は日本陸連の代表選手選考要項を参照すること).

●国際陸連の主催試合(One-Day Meeting Circuits)							
競技会名	開催 周期	直近の 開催地	直近の期日	標準記録 男子	標準記録 女子	男子 優勝記録	女子 優勝記録
IAAF Diamond League (ダイヤモンドリーグ) ※The IAAF Diamond League is the top tier of the IAAF's global invitational track and field meeting competition structure	毎年世界各地で14試合	Qatar Doha	2016/5/6	基本的に主催者が出場者を選考		233	未実施
		China Shanghai	2016/5/14	出場者の選考における取り決めの詳細はRegulationに記載がある。		未実施	194
		Morocco Rabat	2016/5/22	各試合の賞金額(米ドル)		231	未実施
		United States Eugene	2016/5/27~ 2016/5/28	1st 10000		未実施	195
		Italy Rome	2016/6/2	2nd 6000		233	未実施
		United Kingdom Birmingham	2016/6/5	3rd 4000		237	未実施
		Norway Oslo	2016/6/9	4th 3000		未実施	190
		Sweden Stockholm	2016/6/16	5th 2500		未実施	193
		Monaco	2016/7/15	6th 2000		239	未実施
		United Kingdom London	2016/7/22~ 2016/7/23	7th 1500		未実施	198
		Switzerland Lausanne	2016/8/25	8th 1000		235	未実施
		France Paris	2016/8/27	各種目の年間通算ポイント1位の選手には40000米ドルとダイヤモンドトロフィー(※)が授与される。 ※80000米ドル相当の4カラットダイヤモンドが入っている		未実施	198
		Switzerland Zurich	2016/9/1			未実施	196
		Belgium Brussels	2016/9/9			232	未実施
IAAF World Challenge ※The IAAF World Challenge is the second tier of the IAAF's global invitational track and field meeting competition structure	毎年世界各地で	Australia Melbourne	2016/3/5	基本的に主催者が出場者を選考		未実施	193
		Jamaica Kingston	2016/5/7	出場者の選考における取り決めの詳細はRegulationに記載がある。		223	未実施
		Japan Kawasaki	2016/5/8	各試合の賞金額(米ドル) ※コアグループの賞金額		233	193
		China Beijing	2016/5/18	1st 5000		236	193
		Czech Republic Ostrava	2016/5/20	2nd 3500		未実施	未実施
		Netherlands Hengelo	2016/5/22	3rd 2000		221	未実施
		Senegal Dakar	2016/5/25	4th 1500		未実施	未実施
		Brazil São Bernardo do Campo	2016/6/19	5th 1000		221	未実施
		Spain Madrid	2016/6/23	6th 700		未実施	193
		Germany Berlin	2016/9/3	7th 600		未実施	未実施
		Croatia Zagreb	2016/9/6	8th 500		未実施	189
IAAF World Indoor Tour ※男子高跳びは2017年のイベントグループにあるため2016年は実施されていない。	毎年世界各地で	Germany Karlsruhe	2016/2/6	基本的に主催者が出場者を選考		未実施	193
		United States Boston	2016/2/14	出場者の選考における取り決めの詳細はRegulationに記載がある。		未実施	未実施
		Sweden Stockholm	2016/2/17	各試合の賞金額(米ドル) 1st 3000 2nd 1500		未実施	195
		Scotland Glasgow	2016/2/20	3rd 1000 4th 750 5th 500 6th 300		未実施	193

※2016年11月時点で直近の大会の情報を記載している
※参加資格の詳細は各大会の大会要項を参照すること

図 13.6: 国際陸連の主要競技会 (One-Day Meeting Circuits)

ダイヤモンドリーグは国際陸連が主催する競技会の中で世界最高峰のリーグ戦であり、基本的に主催者の選考によって出場者が決まる(出場者の選考における取り決めの詳細は各大会の Regulation を参照すること)。

2016年は14戦、男女各16種目が世界各地で実施されており、各大会の入賞者には賞金が与えられ(1位10000米ドル~8位1000米ドル)、各種目の年間通算ポイント1位の選手には40000米ドルとダイヤモンドトロフィー(80000米ドル相当の4カラットダイヤモンドが入っている)が授与される。

13.3.3 ユニバーシアード

ユニバーシアード (*Universiade*) は2年に一度開催される世界規模の総合競技大会 (陸上以外の競技も実施される競技大会) であり, 国際大学スポーツ連盟 (*FISU*) が主催している. 2015年には全21競技, 参加国数143, 参加選手数12885名の規模で実施されている.

2015年の韓国大会の場合は日本学生陸上競技連合が定めた標準記録 (男子221, 女子186) であり, 過去のユニバーシアード競技結果をもとに設定されている) があり, 日本GPシリーズ, ゴールドングランプリ, 各地区インカレ, 日本学生対校, 実業団・学生対抗が選考競技会となっている (詳細は日本学生陸上競技連合の代表選手選考要項を参照すること).

13.3.4 アジア大会

アジア大会 (アジア競技会, *AsianGames*) は4年に一度アジアで開催される総合競技大会 (陸上以外の競技も実施される競技大会) であり, アジアオリンピック評議会 (*OCA*) が主催している. 2014年には全42競技, 参加国数44, 参加選手数9501名の規模で実施されている.

2014年のアジア大会の場合は, 日本陸連が世界ランキング32位相当となる派遣設定記録B (男子228, 女子192) と, 世界ランキング12位相当となる派遣設定記録A (男子231, 女子195) が設定されており, 日本選手権と日本GPシリーズ, ゴールドングランプリが選考競技会となっている (詳細は日本陸連の代表選手選考要項を参照すること).

13.3.5 オリンピック

オリンピック（夏季オリンピック, *SummerOlympicGames*）は4年に一度開催される世界規模の総合競技大会（陸上以外の競技も実施される競技大会）であり、国際オリンピック委員会（*IOC*）が主催している。2016年には全306種目、参加国数206、参加選手数11000名の規模で実施されている。

2016年のリオオリンピックの場合は国際陸連が定めた参加標準記録（男子229, 女子193であり、フィールド種目は出場者が32人程度になるように設定されている）と、日本陸連が定めた派遣設定記録（男子231, 女子193であり、世界ランキング12位相当に設定されている）があり、世界選手権と日本選手権、日本GPシリーズ、ゴールドングランプリが選考競技会となっている（詳細は日本陸連の代表選手選考要項を参照すること）。

参考までリオオリンピックの高跳び選手の内定条件は

1. 北京世界選手権で8位以内の成績を収めた日本人最上位の競技者
2. 派遣設定記録を満たし、日本選手権で8位以内の成績を収めた最上位の競技者
3. 参加標準記録を満たした、日本選手権優勝者

であった。

13.4 主要競技会の記録水準

日本，アジア，世界の主要なシニアの競技会の優勝記録をグラフにまとめると図 13.7 のようになる。

女子も男子も 1990 年以降の優勝記録は頭打ちの傾向にある。1990 年以降のオリンピック・世界選手権・世界室内の優勝記録を平均すると，男子が 236，女子が 202 であり，これが世界レベルの大会の優勝ラインの目安と言える。

また，アジア大会・アジア選手権・アジア室内の 1990 年以降の優勝記録を平均すると男子が 226，女子が 191 となり，これがアジアレベルの大会の優勝ラインの目安と言える。1990 年以降の日本選手権の優勝記録を平均すると男子が 224，女子が 185 となっている。

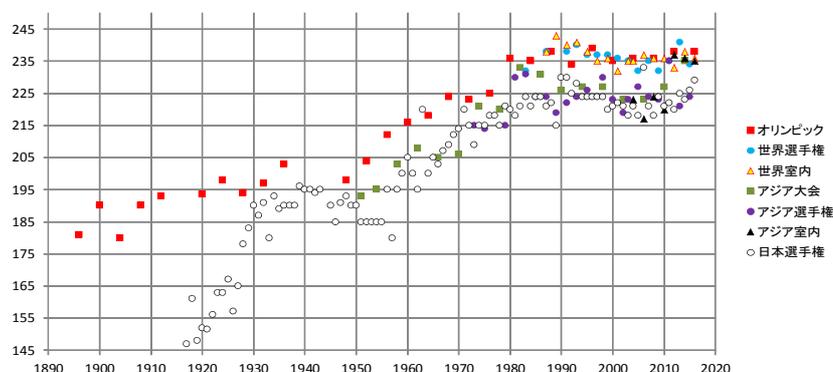


図 13.7: シニアの主要競技会の記録推移まとめ (男子)

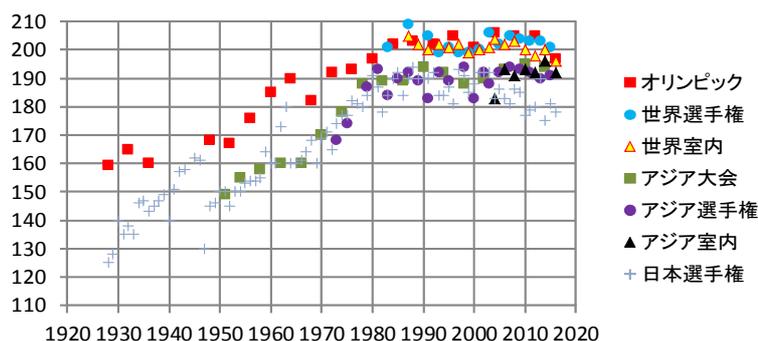


図 13.8: シニアの主要競技会の記録推移まとめ (女子)

13.4.1 日本選手権

2016年現在の日本選手権の歴代優勝記録を図13.9、図13.10にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	所属	回数	開催年	記録	氏名	所属
100	2016	2m29	衛藤 昂	AGF	48	1984	2m00	宮崎欣也	大昭和
99	2015	2m26	戸邊直人	つくばTP	47	1983	2m20	A. スネズヴェル	オーストラリア
98	2014	2m23	衛藤 昂	筑波大	46	1982	1m95	石部安浩	中大
97	2013	2m25	高張広海	日立ICT	45	1981	2m00	宮崎欣也	大昭和
96	2012	2m20	高張広海	日立 ICT	44	1980	2m05	杉岡邦由	日大
95	2011	2m22	戸邊直人	筑波大	43	1979	2m00	杉岡邦由	日大二高
94	2010	2m21	高張広海	日立ICT	42	1978	1m95	笠松登	リッカー
93	2009	2m24	齋藤直幸	富士通	41	1977	1m80	笠松登	リッカー
92	2008	2m18	土屋光	モンテローザ	40	1976	1m95	石川行男	静岡
91	2007	2m21	齋藤直幸	富士通	39	1975	1m85	笠松登	中大
90	2006	2m33	齋藤直幸	富士通	38	1974	1m85	中島武彦	八幡製鉄
89	2005	2m18	齋藤直幸	東京陸協	37	1973	1m85	山本和隆	日大
88	2004	2m21	久保田聡	慶大	36	1972	1m85	石川行男	早大
87	2003	2m18	齋藤直幸	東京陸協	35	1971	1m85	鈴木義博	東洋紡
86	2002	2m21	内田剛弘	福岡大	34	1970	1m90	鈴木義博	早大AC
85	2001	2m22	若野真弘	ゴールドウイン	33	1969	1m90	鈴木義博	早大
84	2000	2m21	吉田孝久	ミスノ	32	1968	1m93	鈴木義博	早大
83	1999	2m20	吉田孝久	ミスノ	31	1967	1m91	田中弘	山口
82	1998	2m24	塚嶋茂樹	三洋信販	30	1966	1m85	原学	門鉄
81	1997	2m24	吉田孝久	ミスノ	29	1965	1m90	森島勝男	静協
80	1996	2m24	野村智宏	日大	28	1964			—中止—
79	1995	2m24	原上三知也	スズキ	27	1963	1m95	原学	明大
78	1994	2m24	吉田孝久	ミスノ	26	1962	1m94	岡本三市	灘順
77	1993	2m28	野中悟	エンドレスAC	25	1961	1m95	原学	明大
76	1992	2m25	吉田孝久	ミスノTC	24	1960	1m95	岡本三市	瀧州
75	1991	2m30	T. ケンプ	パハマ	23	1959	1m96	加島勇	文理大
74	1990	2m30	S. マテイ	ルーマニア	22	1958	1m90	朝隈晋郎	明大
73	1989	2m15	吉田孝久	筑波大	21	1957	1m90	朝隈晋郎	明大
72	1988	2m22	阪本孝男	豊知陸協	20	1956	1m90	安達清	早大
71	1987	2m21	井上基史	筑波大	19	1955	1m88	小野操	慶大
70	1986	2m24	氏野修次	和歌山陸協	18	1954	1m93	木村一夫	早大
69	1985	2m24	氏野修次	和歌山陸協	17	1953	1m80	窪谷利一	日大専門部
68	1984	2m21	阪本孝男	東海スポーツ	16	1952	1m91	木村一夫	早大
67	1983	2m24	阪本孝男	東海スポーツ	15	1951	1m87	木村一夫	早大
66	1982	2m21	阪本孝男	鶴川ク	14	1950	1m90	木村一夫	関西学院
65	1981	2m18	阪本孝男	鶴川ク	13	1949	1m83	木村一夫	関西学院
64	1980	2m20	沢武芳	栃木県運動公園	12	1948	1m78	内藤健蔵	木更津中
63	1979	2m21	山本喜徳	農作高				平岡進	慶大
62	1978	2m15	阪本孝男	筑波大	11	1927	1m65	三木健雄	童野中
61	1977	2m18	影井克弘	本田技研				石井敏三	水戸高
60	1976	2m18	瀬川一紀	慶大	10	1926	1m57	中沢米太郎	岸和田中
59	1975	2m15	浜野敏英	埼玉陸協				平井武	早大
58	1974	2m15	影井克弘	東洋大				伊達十郎	慶大
57	1973	2m09	富沢英彦	大阪陸協	9	1925	1m67	平井武	早大
56	1972	2m15	杉岡邦由	新日鉄	8	1924	1m63	伊達十郎	学習院
55	1971	2m20	富沢英彦	碓氷クラブ	7	1923	1m63	浦沢晋老	北野中学
54	1970	2m14	富沢英彦	碓氷クラブ	6	1922	1m56	伊達十郎	学習院
53	1969	2m12	杉岡邦由	八幡製鉄	5	1921	1m51.5	沢田一郎	慶大
52	1968	2m09	杉岡邦由	八幡製鉄	4	1920	1m52	三宅大輔	慶大
51	1967	2m07	富沢英彦	慶大	3	1919	1m48	原豊二郎	慶大
50	1966	2m03	清水修	大体大	2	1918	1m61	内藤政道	学習院
49	1965	2m05	杉岡邦由	八幡製鉄	1	1917	1m47	内藤政道	学習院

図 13.9: 日本選手権の歴代優勝記録 (男子)

回数	開催年	記録	氏名	所属	回数	開催年	記録	氏名	所属
100	2016	1m78	京谷 萌子	北海道ハイテクAC	55	1971	1m71	鈴木久義江	東洋大
99	2015	1m81	渡邊有希	ミライトテクノ	54	1970	1m89	鈴木久義江	東洋大
98	2014	1m75	渡邊有希	ミライトテクノ	53	1969	1m60	曾根幹子	上下高
97	2013	1m90	福本 幸	甲南学園AC	52	1968	1m68	福岡美千代	小松島高
96	2012	1m80	前田愛莉	順天堂大	51	1967	1m64	山三保子	義作大
95	2011	1m79	福本幸	甲南AC	50	1966	1m61	竹田真実	中京大
94	2010	1m77	藤沢潔香	鎌ヶ谷みちるAC	49	1965	1m60	堀橋子	日立
93	2009	1m85	福本幸	大阪陸協	48	1964	1m60	青木政子	館館高
92	2008	1m86	福本幸	大阪陸協	47	1963	1m80	I. パラシュ	ルーマニア
91	2007	1m81	青山幸	大阪陸協	46	1962	1m73	O. ゲレ	ユーゴスラビア
90	2006	1m83	青山幸	大阪陸協	45	1961	1m80	神谷真美子	大昭和
89	2005	1m86	ハニカット陽子	日体大AC	44	1960	1m80	神谷真美子	大昭和
88	2004	1m83	今井美希	ミスノ	43	1959	1m64	田中初世	八幡製鉄
87	2003	1m92	今井美希	ミスノ	42	1958	1m55	高橋美代子	中大
86	2002	1m92	太田陽子	ミキハウス	41	1957	1m64	近藤由美子	豊後土居高
85	2001	1m92	今井美希	ミスノ	40	1956	1m64	渡辺森子	北学大
84	2000	1m88	太田陽子	ミキハウス	39	1955	1m53	渡辺森子	北学大
83	1999	1m85	今井美希	ミスノ	38	1954	1m50	高橋美代子	三島高
82	1998	1m91	今井美希	中京女大TC	37	1953	1m50	聖真美子	龍岡高
81	1997	1m93	太田陽子	ミキハウス	36	1952	1m45	林怜子	慶学大
80	1996	1m81	太田陽子	日体大	35	1951	1m50	山内リエ	京都AC
79	1995	1m87	今井美希	中京女大	34	1950	1m50	佐藤妙子	福島陸協
78	1994	1m84	真広千波	中京女大	33	1949	1m46	米陀京子	中京体専
77	1993	1m84	佐藤真	ミスノ	32	1948	1m45	米陀京子	倉津高女
76	1992	1m92	佐藤真	ミスノTC	31	1947	1m30	西原綾子	佐賀陸協
75	1991	1m90	佐藤真	ミスノTC	30	1946	1m61	山内リエ	京都
74	1990	1m90	佐藤真	福岡県教委	29	1945	1m62	山内リエ	浪花高女教
73	1989	1m90	倉希真	鶴岡	28	1944			—中止—
72	1988	1m84	佐藤真	福岡大	27	1943	1m58	山内リエ	中京高女
71	1987	1m90	佐藤真	福岡大	26	1942	1m57	山内リエ	中京高女
70	1986	1m84	松井昌美	京都エイム	25	1941	1m51	有永喜代子	中京高女
69	1985	1m92	佐藤真	福岡大	24	1940	1m40	広瀬百合子	関西女教
68	1984	1m90	福光久代	大昭和	23	1939	1m49	有永喜代子	国東女
67	1983	1m84	佐藤真	沼津高	22	1938	1m47	西田順子	札幌女出
66	1982	1m78	福光久代	大昭和	21	1937	1m45	広瀬百合子	東女体専
65	1981	1m87	佐藤真	水戸中	20	1936	1m43	広瀬百合子	東女体専
64	1980	1m91	福光久代	大昭和	19	1935	1m47	相良八重	東女体専
63	1979	1m84	八木たまみ	關東学園大	18	1934	1m46	広瀬百合子	羽咋高女
62	1978	1m80	八木たまみ	關東学園大	17	1933	1m35	山形勝子	日方女
61	1977	1m81	八木たまみ	群馬陸協	16	1932	1m38	浜崎千代	京二条女
60	1976	1m82	曾根幹子	大昭和	15	1931	1m35	浜崎千代	京二条女
59	1975	1m77	曾根幹子	大昭和	14	1930	1m40	永田喜代子	土浦女
58	1974	1m77	曾根幹子	東洋大	13	1929	1m28	宮本美代子	夕陽丘女
57	1973	1m74	曾根幹子	東洋大	12	1928	1m25	吉田喜久枝	アルモンド
56	1972	1m65	福岡美千代	中大					第12回大会までは未実施

図 13.10: 日本選手権の歴代優勝記録 (女子)

13.4.2 アジア室内

2016年現在のアジア室内の歴代優勝記録を図13.11、図13.12にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
7	2016	2m35	Mutaz Essa Barshim	QAT
6	2014	2m36	Mutaz Essa Barshim	QAT
5	2012	2m37	Mutaz Essa Barshim	QAT
4	2010	2m20	Mutaz Essa Barshim	QAT
3	2008	2m24	Sergey Zasimovich	KAZ
2	2006	2m17	Naoyuki Daigo	JPN
1	2004	2m23	Yuriy Pakhlyayev	KAZ

図 13.11: アジア室内の歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
7	2016	1m92	Svetlana Radzivil	UZB
6	2014	1m96	Svetlana Radzivil	UZB
5	2012	1m92	Zheng Xingjuan	CHN
4	2010	1m93	Marina Aitova	KAZ
3	2008	1m91	Tatyana Efimenko	KGZ
2	2006	1m93	Marina Aitova	KAZ
1	2004	1m83	Miyuki Aoyama	JPN

図 13.12: アジア室内の歴代優勝記録（女子）

13.4.3 アジア選手権

2016年現在のアジア選手権の歴代優勝記録を図13.13、図13.14にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
21	2015	2m24	Takashi Eto	JPN
20	2013	2m21	Bi Xiaoliang	CHN
19	2011	2m35	Mutaz Essa Barshim	QAT
18	2009	2m23	Manjula Kumara Wijesekara	SRI
17	2007	2m24	Lee Hup Wei	MAS
16	2005	2m27	Manjula Kumara Wijesekara	SRI
15	2003	2m23	Wang Zhouzhou	CHN
14	2002	2m19	Cui Kai	CHN
13	2000	2m23	Yuriy Pakhlyayev	KAZ
12	1998	2m30	Zhou Zhongge	CHN
11	1995	2m26	Lee Jin-Taek	KOR
10	1993	2m24	Lee Jin-Taek	KOR
9	1991	2m22	Lee Jin-Taek	KOR
8	1989	2m19	Cho Hyun-Ok	KOR
7	1987	2m24	Liu Yunpeng	CHN
6	1985	2m24	Shuji Ujino	JPN
5	1983	2m31	Zhu Jianhua	CHN
4	1981	2m30	Zhu Jianhua	CHN
3	1979	2m15	Kazunori Koshikawa	JPN
2	1975	2m14	Teymour Ghiassi	IRN
1	1973	2m15	Teymour Ghiassi	IRN

図 13.13: アジア選手権の歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
21	2015	1m91	Svetlana Radzivil	UZB
20	2013	1m90	Nadiya Dusanova	UZB
19	2011	1m92	Zheng Xingjuan	CHN
18	2009	1m93	Zheng Xingjuan	CHN
17	2007	1m94	Tatyana Efimenko	KGZ
16	2005	1m92	Tatyana Efimenko	KGZ
15	2003	1m88	Bui Thi Nhung	VIE
14	2002	1m92	Tatyana Efimenko	KGZ
13	2000	1m83	Bobby Aloysius	IND
12	1998	1m94	Miki Imai	JPN
11	1995	1m89	Svetlana Zalevskaya	KAZ
10	1993	1m92	Svetlana Zalevskaya	KAZ
9	1991	1m83	Yoko Ota	JPN
8	1989	1m89	Jin Ling	CHN
7	1987	1m92	Ni Xiuling	CHN
6	1985	1m90	Yang Wenqin	CHN
5	1983	1m84	Zheng Dazhen	CHN
4	1981	1m93	Hisayo Fukumitsu	JPN
3	1979	1m87	Zheng Dazhen	CHN
2	1975	1m74	Hisao Tsuchiya	JPN
1	1973	1m68	Orit Abramovich	ISR

図 13.14: アジア選手権の歴代優勝記録（女子）

13.4.4 アジア大会

2016年現在のアジア大会の歴代優勝記録を図13.15、図13.16にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
17	2014	2m35	Mutaz Essa Barshim	QAT
16	2010	2m27	Mutaz Essa Barshim	QAT
15	2006	2m23	Jean-Claude Rabbath	LIB
14	2002	2m23	Lee Jin-Taek	KOR
13	1998	2m27	Lee Jin-Taek	KOR
12	1994	2m27	Takahisa Yoshida	JPN
11	1990	2m26	Zhou Zhongge	CHN
10	1986	2m31	Zhu Jianhua	CHN
9	1982	2m33	Zhu Jianhua	CHN
8	1978	2m20	Takao Sakamoto	JPN
7	1974	2m21	Teymour Ghiassi	IRN
6	1970	2m06	Teymour Ghiassi	IRN
5	1966	2m05	Bhim Singh	IND
4	1962	2m08	Kuniyoshi Sugioka	JPN
3	1958	2m03	Nagalingam Ethiriveerasingham	CEY
2	1954	1m95	Ajit Singh	IND
1	1951	1m93	Andres Franco	PHI

図 13.15: アジア大会の歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
17	2014	1m94	Svetlana Radzivil	UZB
16	2010	1m95	Svetlana Radzivil	UZB
15	2006	1m93	Marina Aitova	KAZ
14	2002	1m90	Tatyana Efimenko	KGZ
13	1998	1m88	Yoko Ota	JPN
12	1994	1m92	Svetlana Munkova	UZB
11	1990	1m94	Megumi Sato	JPN
10	1986	1m89	Megumi Sato	JPN
9	1982	1m89	Zheng Dazhen	CHN
8	1978	1m88	Zheng Dazhen	CHN
7	1974	1m78	Orit Abramovich	ISR
6	1970	1m70	Michiyo Inaoka	JPN
5	1966	1m60	Mami Takeda	JPN
4	1962	1m60	Kinuko Tsutsumi	JPN
3	1958	1m58	Emi Kamiya	JPN
2	1954	1m55	Ahuba Kraus	ISR
1	1951	1m49	Koyoko Yoneda	JPN

図 13.16: アジア大会の歴代優勝記録（女子）

13.4.5 世界室内

2016年現在の世界室内の歴代優勝記録を図13.17、図13.18にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
16	2016	2m36	Gianmarco Tamberi	ITA
15	2014	2m38	Mutaz Essa Barshim	QAT
14	2012	2m33	Dimitrios Chondrokoukis	GRE
13	2010	2m36	Ivan Ukhov	RUS
12	2008	2m36	Stefan Holm	SWE
11	2006	2m37	Yaroslav Rybakov	RUS
10	2004	2m35	Stefan Holm	SWE
9	2003	2m35	Stefan Holm	SWE
8	2001	2m32	Stefan Holm	SWE
7	1999	2m36	Javier Sotomayor	CUB
6	1997	2m35	Charles Austin	USA
5	1995	2m38	Javier Sotomayor	CUB
4	1993	2m41	Javier Sotomayor	CUB
3	1991	2m40	Hollis Conway	USA
2	1989	2m43	Javier Sotomayor	CUB
1	1987	2m38	Igor Paklin	URS

図13.17: 世界室内の歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
16	2016	1m96	Vashti Cunningham	USA
15	2014	2m00	Mariya Kuchina Kamila Lićwinko	RUS POL
14	2012	1m98	Chaunté Lowe	USA
13	2010	2m00	Blanka Vlašić	CRO
12	2008	2m03	Blanka Vlašić	CRO
11	2006	2m02	Yelena Slesarenko	RUS
10	2004	2m04	Yelena Slesarenko	RUS
9	2003	2m01	Kajsa Bergqvist	SWE
8	2001	2m00	Kajsa Bergqvist	SWE
7	1999	1m99	Khristina Kalcheva	BUL
6	1997	2m02	Stefka Kostadinova	BUL
5	1995	2m01	Alina Astafei	GER
4	1993	2m02	Stefka Kostadinova	BUL
3	1991	2m00	Heike Henkel	GER
2	1989	2m02	Stefka Kostadinova	BUL
1	1987	2m05	Stefka Kostadinova	BUL

図 13.18: 世界室内の歴代優勝記録（女子）

13.4.6 世界選手権

2016年現在の世界選手権の歴代優勝記録を図13.19、図13.20にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
15	2015	2m34	Derek Drouin	CAN
14	2013	2m41	Bohdan Bondarenko	UKR
13	2011	2m35	Jesse Williams	USA
12	2009	2m32	Yaroslav Rybakov	RUS
11	2007	2m35	Donald Thomas	BAH
10	2005	2m32	Yuriy Krymarenko	UKR
9	2003	2m35	Jacques Freitag	RSA
8	2001	2m36	Martin Buß	GER
7	1999	2m37	Vyacheslav Voronin	RUS
6	1997	2m37	Javier Sotomayor	CUB
5	1995	2m37	Troy Kemp	BAH
4	1993	2m40	Javier Sotomayor	CUB
3	1991	2m38	Charles Austin	USA
2	1987	2m38	Patrik Sjöberg	SWE
1	1983	2m32	Hennadiy Avdyeyenko	URS

図 13.19: 世界選手権の歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
15	2015	2m01	Mariya Kuchina	RUS
14	2013	2m03	Svetlana Shkolina	RUS
13	2011	2m03	Anna Chicherova	RUS
12	2009	2m04	Blanka Vlašić	CRO
11	2007	2m05	Blanka Vlašić	CRO
10	2005	2m02	Kajsa Bergqvist	SWE
9	2003	2m06	Hestrie Cloete	RSA
8	2001	2m00	Hestrie Cloete	RSA
7	1999	1m99	Inha Babakova	UKR
6	1997	1m99	Hanne Haugland	NOR
5	1995	2m01	Stefka Kostadinova	BUL
4	1993	1m99	Ioamnet Quintero	CUB
3	1991	2m05	Heike Henkel	GER
2	1987	2m09	Stefka Kostadinova	BUL
1	1983	2m01	Tamara Bykova	URS

図 13.20: 世界選手権の歴代優勝記録（女子）

参考までに 2016 年現在の日本人選手の世界選手権の過去の大会結果を図 13.21, 図 13.22 にまとめる.

回数	開催年	記録	氏名	成績
15	2015	2m26	Naoto Tobe	予選落ち
		2m22	Takashi Eto	予選落ち
		2m17	Yuji Hiramatsu	予選落ち
14	2013	出場者なし		
13	2011	出場者なし		
12	2009	2m20	Naoyuki Daigo	予選落ち
11	2007	2m19	Naoyuki Daigo	予選落ち
10	2005	2m20	Naoyuki Daigo	予選落ち
9	2003	出場者なし		
8	2001	出場者なし		
7	1999	2m15	Takahiro Kimino	予選落ち
6	1997	2m15	Michiya Onoue	予選落ち
5	1995	出場者なし		
4	1993	2m25	Takahisa Yoshida	予選落ち
		2m10	Satoru Nonaka	予選落ち
3	1991	2m24	Takahisa Yoshida	予選落ち
2	1987	2m10	Motochika Inoue	予選落ち
1	1983	2m18	Takao Sakamoto	予選落ち
		2m18	Takashi Katamine	予選落ち

図 13.21: 世界選手権の日本人選手結果 (男子)

回数	開催年	記録	氏名	成績
15	2015	出場者なし		
14	2013	1m78	Miyuki Fukumoto	予選落ち
13	2011	出場者なし		
12	2009	出場者なし		
11	2007	1m84	Miyuki Aoyama	予選落ち
10	2005	出場者なし		
9	2003	NM	Miki Imai	予選落ち
8	2001	1m85	Miki Imai	予選落ち
7	1999	1m89	Miki Imai	予選落ち
		1m85	Yoko Ota	予選落ち
6	1997	出場者なし		
5	1995	出場者なし		
4	1993	1m75	Megumi Sato	予選落ち
3	1991	1m83	Megumi Sato	予選落ち
2	1987	1m88	Megumi Sato	予選落ち
1	1983	1m80	Megumi Sato	予選落ち
		1m75	Hisayo Fukumitsu	予選落ち

図 13.22: 世界選手権の日本人選手結果（女子）

13.4.7 オリンピック

2016年現在のオリンピックの歴代優勝記録を図13.23、図13.24にまとめる。

回数	開催年	記録	氏名	国名
31	2016	2m38	Derek Drouin	CAN
30	2012	2m38	Ivan Ukhov	RUS
29	2008	2m36	Andrey Silnov	RUS
28	2004	2m36	Stefan Holm	SWE
27	2000	2m35	Sergey Kliugin	RUS
26	1996	2m39	Charles Austin	USA
25	1992	2m34	Javier Sotomayor	CUB
24	1988	2m38	Hennadiy Avdyeyenko	URS
23	1984	2m35	Dietmar Mögenburg	FRG
22	1980	2m36	Gerd Wessig	GDR
21	1976	2m25	Jacek Wszofa	POL
20	1972	2m23	Jüri Tarmak	URS
19	1968	2m24	Dick Fosbury	USA
18	1964	2m18	Valeriy Brumel	URS
17	1960	2m16	Robert Shavlakadze	URS
16	1956	2m12	Charles Dumas	USA
15	1952	2m04	Walt Davis	USA
14	1948	1m98	John Winter	AUS
13	1944	中止		
12	1940	中止		
11	1936	2m03	Cornelius Johnson	USA
10	1932	1m97	Duncan McNaughton	CAN
9	1928	1m94	Bob King	USA
8	1924	1m98	Harold Osborn	USA
7	1920	1m936	Richmond Landon	USA
6	1916	中止		
5	1912	1m93	Alma Richards	USA
4	1908	1m90	Harry Porter	USA
3	1904	1m80	Samuel Jones	USA
2	1900	1m90	Irving Baxter	USA
1	1896	1m81	Ellery Clark	USA

図 13.23: オリンピックの歴代優勝記録（男子）

回数	開催年	記録	氏名	国名
31	2016	1m97	Ruth Beitia	ESP
30	2012	2m05	Anna Chicherova	RUS
29	2008	2m05	Tia Hellebaut	BEL
28	2004	2m06	Yelena Slesarenko	RUS
27	2000	2m01	Yelena Yelesina	RUS
26	1996	2m05	Stefka Kostadinova	BUL
25	1992	2m02	Heike Henkel	GER
24	1988	2m03	Louise Ritter	USA
23	1984	2m02	Ulrike Meyfarth	FRG
22	1980	1m97	Sara Simeoni	ITA
21	1976	1m93	Rosemarie Ackermann	GDR
20	1972	1m92	Ulrike Meyfarth	FRG
19	1968	1m82	Miloslava Rezková	TCH
18	1964	1m90	Iolanda Balas	ROM
17	1960	1m85	Iolanda Balas	ROM
16	1956	1m76	Mildred McDaniel	USA
15	1952	1m67	Esther Brand	RSA
14	1948	1m68	Alice Coachman	USA
13	1944	中止		
12	1940	中止		
11	1936	1m60	Ibolya Csák	HUN
10	1932	1m65	Jean Shiley	USA
9	1928	1m595	Ethel Catherwood	CAN

図 13.24: オリンピックの歴代優勝記録（女子）

参考までに 2016 年現在の日本人選手のオリンピックの過去の大会結果を図 13.25, 図 13.26 にまとめる.

回数	開催年	記録	氏名	成績
31	2016	2m17	Takashi Eto	予選35位
30	2012	出場者なし		
29	2008	2m15	Naoyuki Daigo	予選36位
28	2004	出場者なし		
27	2000	2m15	Takahisa Yoshida	予選27位
26	1996	2m15	Tomohiro Nomura	予選27位
25	1992	出場者なし		
24	1988	出場者なし		
23	1984	2m21	Takao Sakamoto	予選15位
22	1980	出場者なし		
21	1976	2m13	Katsumi Fukura	予選17位
		2m13	Kazunori Koshikawa	予選19位
20	1972	2m05(2m15)	Hidehiko Tomizawa	決勝19位
		2m06	Kuniyoshi Sugioka	予選31位
19	1968	2m09	Kuniyoshi Sugioka	予選15位
18	1964	2m00	Kuniyoshi Sugioka	予選24位
		1m90	Kinya Miyazaki	予選27位
17	1960	1m95	Kuniyoshi Sugioka	予選18位
16	1956	1m96	Yukio Ishikawa	予選12位
15	1952	出場者なし		
14	1948	出場者なし		
13	1944	中止		
12	1940	中止		
11	1936	1m97	Kimio Yada	決勝5位
		1m94	Hiroshi Tanaka	決勝6位
		1m94	Yoshiro Asakuma	決勝6位
10	1932	1m94	Kazuo Kimura	決勝6位
		1m90	Misao Ono	決勝7位
9	1928	1m88	Kazuo Kimura	決勝6位
		1m88	Mikio Oda	決勝7位
8	1924	1m80	Mikio Oda	予選10位
7	1920	出場者なし		
6	1916	中止		
5	1912	出場者なし		
4	1908	出場者なし		
3	1904	出場者なし		
2	1900	出場者なし		
1	1896	出場者なし		

図 13.25: オリンピックの日本人選手結果 (男子)

回数	開催年	記録	氏名	成績
31	2016	出場者なし		
30	2012	出場者なし		
29	2008	出場者なし		
28	2004	出場者なし		
27	2000	1m90(1m94) 1m92	Yoko Ota Miki Imai	決勝11位 予選16位
26	1996	出場者なし		
25	1992	1m91	Megumi Sato	決勝7位
24	1988	1m90	Megumi Sato	決勝11位
23	1984	1m87 1m84	Hisayo Fukumitsu Megumi Sato	予選17位 予選18位
22	1980	出場者なし		
21	1976	1m70	Mikiko Sone	予選27位
20	1972	1m65 1m65	Michiyo Inaoka Mihoko Yama	予選33位 予選35位
19	1968	出場者なし		
18	1964	1m60	Torii Mitsuko	予選23位
17	1960	出場者なし		
16	1956	出場者なし		
15	1952	出場者なし		
14	1948	出場者なし		
13	1944	中止		
12	1940	中止		
11	1936	1m40	Junko Nishida	決勝14位
10	1932	1m50 1m50	Yuriko Hirohashi Yaeko Sagara	決勝8位 決勝9位
9	1928	出場者なし		

図 13.26: オリンピックの日本人選手結果 (女子)

13.5 ワールドランキング

ワールドランキングとは IAAF が 2019 年より導入したランキング制度であり、2020 年の東京オリンピックから代表選手の選考基準に加えられる。

ワールドランキングでは「大会順位によるスコア」と「記録によるスコア」を合算した「パフォーマンススコア」によって順位が決まる（パフォーマンススコアは大会の時期が昔になるほど減算される仕組みがある）。

ワールドランキングはパフォーマンススコア上位 5 大会（直近 1 年）の平均値である「ランキングスコア」の大小で順位が決まる。

13.5.1 大会順位によるスコア

「大会順位によるスコア」は大会のカテゴリごとに決まっており、IAAF によって図 13.27 のように定められている。大会のカテゴリはそのまま大会のグレードに対応している。

カテゴリー	大会名										
OW	オリンピック, 世界選手権										
DF	ダイヤモンドリーグファイナル										
GW	世界室内, コンチネンタルカップ, ダイヤモンドリーグ										
GL	エリア選手権(アジア選手権など)										
A	メジャーゲームズ(アジア大会など) ワールドチャレンジ, 世界室内ツアー エリア室内(アジア室内)など										
B	ユニバーシアード, ナショナル選手権(日本選手権など) エリアパーミット(top tier)など										
C	U20世界選手権, エリアパーミット(second tier)など										
D	伝統的な国際競技会, エリアパーミット(third tier) アジアジュニア, ユース五輪など										
E	国別対抗戦, IAAF承認指定競技会, アジアユースなど										
F	各国公認競技会										

順位	OW	DF	GW	GL	A	B	C	D	E	F	時期	ポイント
1	350	240	200	170	140	100	60	40	25	15	12~11ヵ月前	-60
2	310	210	170	145	120	80	50	35	21	10	11~10ヵ月前	-40
3	280	185	150	130	110	70	45	30	18	5	10~9ヵ月前	-20
4	250	170	140	120	100	60	40	25	15			
5	230	155	130	110	90	55	35	22	12			
6	215	145	120	100	80	50	30	19	10			
7	200	135	110	90	70	45	27	17				
8	185	125	100	80	60	40	25	15				
9	130	90	70	60								
10	120	80	60	50								
11	110	70	50	45								
12	100	60	45	40								
13	95											
14	90											
15	85											
16	80											

図 13.27: 大会順位によるスコア

13.5.2 記録によるスコア

「記録によるスコア」は IAAF によって、十種競技のポイントのように記録ごとに定められている。このスコアリングテーブルは異なる種目の記録を公平に比較するために統計処理で作成されたものである。試合の価値を評価したり、大会の MVP を決めるために用いることを想定して作成されている。スコアリングテーブルの最新版は IAAF の web サイトで公開されている。

参考までに走り高跳びの主要な記録のスコアと、同スコアの他種目の記録を、2017 年版のスコアリングテーブルを使って比較した結果を図 13.28 から図 13.33 にそれぞれ示す（他種目で同スコアの記録が存在しない場合は、対象スコア以下の記録で、最もスコアが高い記録を記載している）。

スコア	高跳び	100m	200m	400m	110mH	400mH
570	1.60	12.19	24.90	55.37	17.17	63.18
612	1.65	12.01	24.52	54.51	16.86	62.02
655	1.70	11.84	24.14	53.67	16.55	60.86
698	1.75	11.68	23.77	52.85	16.25	59.74
741	1.80	11.52	23.42	52.06	15.96	58.66
784	1.85	11.36	23.07	51.28	15.68	57.60
827	1.90	11.21	22.74	50.53	15.41	56.58
870	1.95	11.06	22.41	49.80	15.14	55.58
914	2.00	10.91	22.08	49.08	14.88	54.58
958	2.05	10.77	21.77	48.36	14.62	53.61
1002	2.10	10.62	21.45	47.67	14.36	52.66
1046	2.15	10.49	21.15	46.99	14.11	51.73
1090	2.20	10.35	20.85	46.32	13.87	50.81
1135	2.25	10.21	20.55	45.65	13.63	49.90
1179	2.30	10.08	20.26	45.01	13.39	49.03
1224	2.35	9.95	19.98	44.37	13.16	48.15
1269	2.40	9.82	19.69	43.74	12.93	47.29
1314	2.45	9.70	19.42	43.12	12.70	46.44
1359	2.50	9.57	19.14	42.51	12.48	45.61

図 13.28: 男子のスコア（短距離種目と比較）

スコア	高跳び	800m	1500m	5000m	10000m	3000mSC
570	1.60	2.08.34	4.26.59	16.27.02	35.07.03	10.56.59
612	1.65	2.06.40	4.22.31	16.10.63	34.29.28	10.43.43
655	1.70	2.04.48	4.18.07	15.54.42	33.51.96	10.30.43
698	1.75	2.02.62	4.13.97	15.38.74	33.15.85	10.17.85
741	1.80	2.00.82	4.10.00	15.23.53	32.40.83	10.05.64
784	1.85	1.59.07	4.06.14	15.08.75	32.06.81	9.53.79
827	1.90	1.57.37	4.02.38	14.54.38	31.33.71	9.42.26
870	1.95	1.55.71	3.58.72	14.40.37	31.01.47	9.31.02
914	2.00	1.54.05	3.55.06	14.26.40	30.29.29	9.19.81
958	2.05	1.52.44	3.51.50	14.12.75	29.57.87	9.08.86
1002	2.10	1.50.86	3.48.01	13.59.42	29.27.17	8.58.17
1046	2.15	1.49.31	3.44.60	13.46.37	28.57.13	8.47.70
1090	2.20	1.47.80	3.41.26	13.33.60	28.27.72	8.37.45
1135	2.25	1.46.28	3.37.92	13.20.80	27.58.25	8.27.18
1179	2.30	1.44.83	3.34.71	13.08.53	27.29.99	8.17.34
1224	2.35	1.43.37	3.31.49	12.56.21	27.01.64	8.07.46
1269	2.40	1.41.94	3.28.33	12.44.12	26.33.80	7.57.76
1314	2.45	1.40.53	3.25.23	12.32.24	26.06.44	7.48.23
1359	2.50	1.39.15	3.22.17	12.20.57	25.39.56	7.38.86

図 13.29: 男子のスコア（中長距離種目と比較）

スコア	高跳び	棒高跳び	幅跳び	三段跳び	砲丸投げ	円盤投げ	ハンマー投げ	槍投げ	十種競技
570	1.60	3.40	5.33	11.28	10.71	33.13	39.20	42.39	4318
612	1.65	3.56	5.53	11.70	11.42	35.44	41.96	45.38	4602
655	1.70	3.72	5.73	12.12	12.15	37.81	44.79	48.44	4892
698	1.75	3.89	5.94	12.54	12.88	40.17	47.61	51.49	5180
741	1.80	4.05	6.14	12.96	13.60	42.53	50.43	54.54	5468
784	1.85	4.21	6.35	13.37	14.33	44.89	53.25	57.59	5754
827	1.90	4.38	6.55	13.79	15.06	47.24	56.07	60.63	6040
870	1.95	4.54	6.75	14.20	15.78	49.59	58.88	63.67	6324
914	2.00	4.70	6.96	14.63	16.52	52.00	61.75	66.78	6614
958	2.05	4.86	7.17	15.05	17.26	54.40	64.62	69.89	6903
1002	2.10	5.03	7.37	15.47	18.00	56.80	67.49	72.99	7191
1046	2.15	5.19	7.57	15.88	18.74	59.20	70.36	76.09	7477
1090	2.20	5.35	7.78	16.30	19.48	61.59	73.22	79.18	7763
1135	2.25	5.52	7.98	16.72	20.23	64.04	76.14	82.35	8054
1179	2.30	5.68	8.19	17.14	20.97	66.43	79.00	85.44	8338
1224	2.35	5.84	8.39	17.56	21.72	68.87	81.92	88.59	8627
1269	2.40	6.00	8.60	17.98	22.47	71.31	84.83	91.74	8915
1314	2.45	6.17	8.80	18.39	23.22	73.74	87.75	94.89	9202
1359	2.50	6.33	9.00	18.81	23.97	76.18	90.65	98.04	9488

図 13.30: 男子のスコア（フィールド種目と比較）

スコア	高跳び	100m	200m	400m	100mH	400mH
593	1.35	14.27	29.23	67.92	17.79	76.67
640	1.40	13.97	28.60	66.29	17.31	74.60
687	1.45	13.68	27.99	64.71	16.86	72.60
735	1.50	13.39	27.39	63.15	16.41	70.63
782	1.55	13.12	26.82	61.68	15.98	68.76
830	1.60	12.85	26.25	60.22	15.56	66.91
878	1.65	12.59	25.71	58.80	15.14	65.11
926	1.70	12.34	25.17	57.42	14.74	63.36
974	1.75	12.09	24.65	56.07	14.35	61.66
1023	1.80	11.84	24.13	54.73	13.96	59.96
1072	1.85	11.60	23.63	53.43	13.59	58.30
1121	1.90	11.37	23.13	52.15	13.21	56.68
1170	1.95	11.14	22.65	50.90	12.85	55.10
1219	2.00	10.92	22.18	49.67	12.50	53.54
1269	2.05	10.69	21.70	48.45	12.14	51.99
1319	2.10	10.47	21.24	47.25	11.79	50.47
1369	2.15	10.25	20.79	46.07	11.45	48.98

図 13.31: 女子のスコア（短距離種目と比較）

スコア	高跳び	800m	1500m	5000m	10000m	3000mSC
593	1.35	2.37.16	5.29.63	20.43.31	43.58.87	14.00.50
640	1.40	2.33.55	5.21.45	20.10.01	42.46.52	13.34.47
687	1.45	2.30.07	5.13.57	19.37.91	41.36.78	13.09.39
735	1.50	2.26.64	5.05.79	19.06.24	40.27.99	12.44.64
782	1.55	2.23.38	4.58.42	18.36.22	39.22.76	12.21.18
830	1.60	2.20.16	4.51.12	18.06.47	38.18.15	11.57.93
878	1.65	2.17.03	4.44.02	17.37.58	37.15.37	11.35.35
926	1.70	2.13.98	4.37.12	17.09.46	36.14.30	11.13.38
974	1.75	2.11.01	4.30.39	16.42.07	35.14.78	10.51.97
1023	1.80	2.08.06	4.23.69	16.14.79	34.15.52	10.30.65
1072	1.85	2.05.17	4.17.15	15.48.16	33.17.66	10.09.84
1121	1.90	2.02.35	4.10.76	15.22.13	32.21.11	9.49.50
1170	1.95	1.59.59	4.04.51	14.56.66	31.25.78	9.29.59
1219	2.00	1.56.89	3.58.38	14.31.72	30.31.60	9.10.10
1269	2.05	1.54.18	3.52.26	14.06.78	29.37.43	8.50.62
1319	2.10	1.51.53	3.46.25	13.42.33	28.44.31	8.31.51
1369	2.15	1.48.93	3.40.36	13.18.34	27.52.19	8.12.76

図 13.32: 女子のスコア（中長距離種目と比較）

スコア	高跳び	棒高跳び	幅跳び	三段跳び	砲丸投げ	円盤投げ	ハンマー投げ	槍投げ	八種競技
593	1.35	2.78	4.10	8.76	10.11	33.86	38.84	33.66	3489
640	1.40	2.94	4.32	9.24	10.87	36.44	41.79	36.22	3738
687	1.45	3.10	4.54	9.72	11.63	39.02	44.72	38.78	3986
735	1.50	3.26	4.77	10.20	12.41	41.65	47.72	41.39	4239
782	1.55	3.41	4.99	10.68	13.17	44.22	50.65	43.95	4485
830	1.60	3.57	5.22	11.16	13.94	46.84	53.64	46.56	4736
878	1.65	3.73	5.44	11.64	14.71	49.46	56.63	49.16	4985
926	1.70	3.89	5.66	12.12	15.49	52.07	59.61	51.76	5234
974	1.75	4.04	5.88	12.59	16.26	54.69	62.59	54.36	5481
1023	1.80	4.20	6.11	13.07	17.04	57.35	65.63	57.01	5733
1072	1.85	4.36	6.33	13.56	17.83	60.01	68.66	59.66	5983
1121	1.90	4.52	6.56	14.04	18.61	62.67	71.70	62.30	6233
1170	1.95	4.68	6.78	14.51	19.40	65.32	74.72	64.94	6481
1219	2.00	4.83	7.00	14.99	20.18	67.98	77.75	67.58	6729
1269	2.05	4.99	7.23	15.47	20.98	70.68	80.83	70.26	6980
1319	2.10	5.15	7.45	15.95	21.78	73.38	83.91	72.95	7231
1369	2.15	5.31	7.68	16.43	22.57	76.07	86.98	75.63	7481

図 13.33: 女子のスコア（フィールド種目と比較）

参考までにこれを記載している 2019 年 5 月 28 日時点の日本男子走り高跳びのランキングを図 13.34 に示す。

PLACE (順位)	COMPETITOR (選手名)	DOB (誕生日)	NAT (国)	SCORE (スコア)	EVENT LIST (種目)
1	Naoto TOBE	31-Mar-92	JPN	1314	High Jump [High Jump ind.]
2	Takashi ETO	5-Feb-91	JPN	1232	High Jump
3	Tomohiro SHINNO	17-Aug-96	JPN	1147	High Jump
4	Keitaro FUJITA	2-Oct-97	JPN	1114	High Jump
5	Ryo SATO	21-Jul-94	JPN	1106	High Jump
6	Ryoichi AKAMATSU	2-May-95	JPN	1104	High Jump
7	Kazuhiro OTA	11-Jun-95	JPN	1081	High Jump
8	Naoto HASEGAWA	15-Nov-96	JPN	1080	High Jump

As of 28 May 2019

図 13.34: 日本男子走り高跳びランキング (2019 年 5 月 28 日時点)

1 位の戸邊選手のランキングスコアの内訳を図 13.34 に示す。

NAOTO TOBE (As of 28 May 2019)		※1:大会のカテゴリ ※2:記録によるスコア ※3:大会順位によるスコア ※4:パフォーマンススコア(R.Sc+Pl.Sc)							
Date (日付)	Competition (試合名)	Crit. (国)	Cat. (※1)	Event (種目)	Pl. (順位)	Result (記録)	R.Sc (※2)	Pl.Sc (※3)	Pf.Sc (※4)
2-Feb-19	Indoor Meeting, Karlsruhe	JPN	A	High Jump ind.	1	2.35	1224	140	1364
20-Feb-19	PSD Bank Leichtathletik Meeting, Düsseldorf	JPN	A	High Jump ind.	1	2.34	1215	140	1355
19-May-19	Seiko Golden Grand Prix, Osaka	JPN	A	High Jump	1	2.27	1152	140	1292
31-Aug-18	Bruxelles Memorial van Damme	JPN	DF	High Jump	6	2.26	1143	145	1288
24-Apr-19	Asian Championships, Doha	JPN	GL	High Jump	3	2.26	1143	130	1273

Ranking Score: 1314
(Pf.Scの平均値)

図 13.35: ランキングスコアの内訳

ランキングスコアは種目間の比較も可能であり、図 13.36 のような全種目のランキングを作成することもできる。こうしたランキングは IAAF の web サイトで誰でも容易に確認することができる。

PLACE (順位)	COMPETITOR (選手名)	DOB (誕生日)	NAT (国)	SCORE (スコア)	EVENT LIST (種目)
1	Naoto TOBE	31-Mar-92	JPN	1314	High Jump [High Jump ind.]
2	Suguru OSAKO	23-May-91	JPN	1313	Marathon
3	Toshikazu YAMANISHI	15-Feb-96	JPN	1309	20km Walk
4	Hirooki ARAI	18-May-88	JPN	1297	50km Walk
5	Yoshihide KIRYU	15-Dec-95	JPN	1283	100m,200m
6	Yuta SHIARA	18-Dec-91	JPN	1282	Marathon
7	Yuma HATTORI	13-Nov-93	JPN	1281	Marathon
8	Satoshi MARUO	28-Nov-91	JPN	1280	50km Walk

As of 28 May 2019

図 13.36: 日本男子陸上競技ランキング (2019 年 5 月 28 日時点)

13.6 ドーピングについて

ドーピングは全てのスポーツで厳しく禁止されており、当然ながら陸上競技でも厳しく取り締まられている。近年では国際大会ではもちろんのこと、国内大会でも全国規模の大会であれば年齢を問わずにドーピングチェックが行われるようになってきた。著者である私も何度かドーピングチェックを受けたことのある選手の一人である。

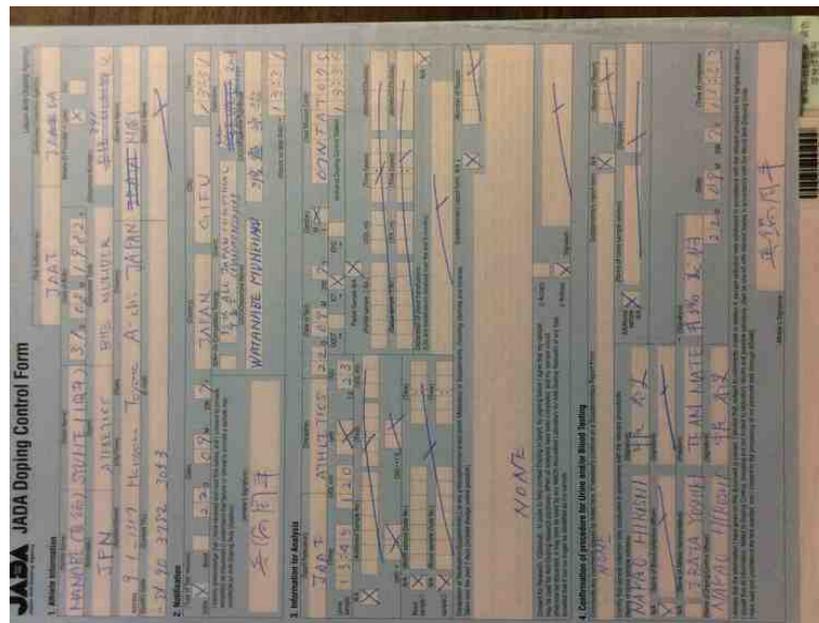


図 13.37: JADA の DopingControlForm

ドーピング違反が発覚した場合は長期間の競技離脱に留まらず、極めて厳しい社会的制裁を受けることになる。ついうっかり違反してしまうことのないように選手は常に最新の情報を確認し、食べ物やサプリメント、ドリンクに禁止物質が含まれていないか常にチェックする習慣を身に付けてほしい。

医療機関を受診する場合は自分がアスリートであることを医者に伝え、薬が処方された場合は自分で問題がないか調べるようにしてほしい。例えば JADA のサイト <http://www.globaldro.com/JP/search> で薬に問題がないか調べることができる。

市販薬にも禁止物質を含むものも多くあるが、その全てを把握することは困難なため、使用可能な市販薬のリストをある程度覚えておくとよいだろう。少なくとも自分の常備薬に問題がないことは確認しておいてほしい。例えば JAAF のサイト http://www.jaaf.or.jp/medical/doping_control.pdf で使用可能な市販薬のリストが分かる。